

子どもを虐待から守る。

命の大切さを考え、子どもが犠牲にならないまちづくりに取り組みます

近年、急増する児童虐待に対し、的確・迅速に対応していくため、南丹市では、昨年十二月二十二日に南丹市要保護児童対策地域協議会（通称：南丹市児童虐待防止ネットワーク）を立ち上げました。

■児童虐待の現状

全国の児童相談所が受けた虐待相談の件数は平成十七年度で約三万四千件あり年々増加しています。京都府でも平成十七年度で二百九十三件（京都児童相談所調べ）あり、虐待は子どもたちを取り巻く身近な問題になっています。

京都府内での虐待については、主な虐待者は実の父母がその大半を占めています。虐待の内容としては、身体的な虐待（身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴行）が百三十四件、ネグレクト（減食や長時間の放置など、保護者としての監護を著しく怠ること）が百二十二件あり、ほかにも心理的虐待（言葉による脅かしや、子どもを無視するなど）、性的虐待（わいせつな行為をすること。またはわいせつな行為をさせること）が合わせて三十七件となっています。また、虐待を受けた児童年齢

は乳児から十二歳までが二百三十件、十三歳以上で六十三件です。特に幼い子どもは自ら虐待されていることを訴えることが難しいため、地域で子どもたちを見守ることが、児童虐待の早期発見につながります。

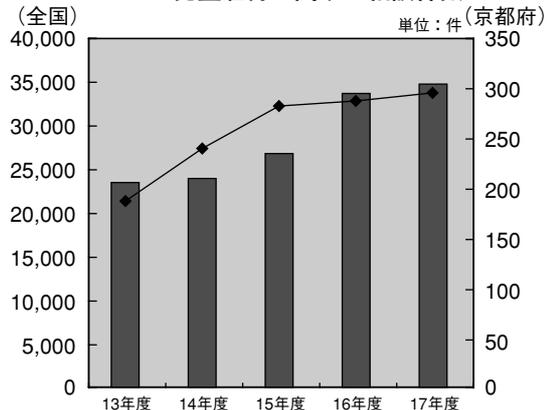
■南丹市における児童虐待の現状

現在、南丹市における市の福祉事務所や京都児童相談所への相談件数は、月に数件程度の状況です。しかし、子どもを取り巻く環境が厳しくなる中で、今後は南丹市でも虐待が発生する可能性があり、未然に虐待を防止できるように、南丹市児童虐待防止ネットワークを立ち上げました。

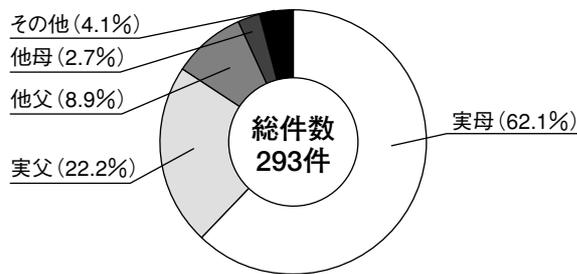
■南丹市児童虐待防止ネットワークの役割

南丹市児童虐待防止ネットワークでは、京都児童相談所、南丹保健所、船井医師会、京

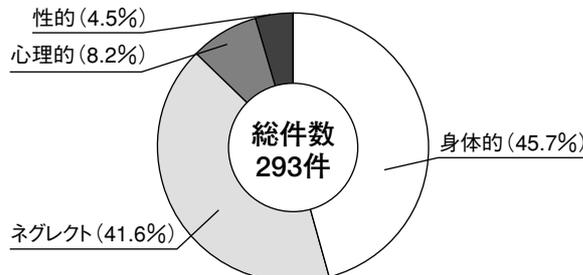
全国および京都府における児童虐待に関する相談件数



平成17年度 京都府内で起きた子どもに対する主な虐待者の割合



平成17年度 京都府内で起きた子どもに対する虐待内容の割合



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
全 国	23,274	23,738	26,569	33,408	34,472
京都府	186	238	280	285	293

（京都児童相談所調べ）